

志布志市が取り組む「ブランドづくり」を紹介します！

『「ふるさと納税」の活用と志布志のあるべき地域活性③
～“日本一の「志」のまち”であるために～』



コラムニスト：ふじやま学校代表取締役 坂本貴弘 神奈川県出身。志布志ブランド推進アドバイザーとしてブランド作りにも携わる。東京大学卒業。



こころざしコラム 第30回 坂本貴弘

本コラムでも何度か述べさせていただいている「ふるさと納税」※1利用促進のための制度改正やマスメディアの報道を背景に、前年度比で3倍以上となった平成27年度から平成28年度はさらに4倍以上の寄附が集まり※2、全国的な活用急増の勢いが今年度も継続中の模様です。

このような中、志布志市でも、今年度すでに9億円の寄附を集め（平成28年4月～10月末時点）、「ふるさと納税返礼品」の本格採用初年度ながら大躍進となった昨年（納税総額7億円超・平成27年6月～平成28年3月）をすでに超える実績となっています。

「ふるさと納税」制度はうまく活用することで、志布志市の財政を拡充させながら、志布志ファンを全国に作るきっかけとなります。行政、市民、生産者（事業者）のWIN・WIN・WINが充分可能な取組となる制度です。志布志市として、全国から多くの寄附を集めること

に成功している今こそ、税金と各寄附者のお金が制度運用の源泉であるという基本構造に立ち返らなければなりません。「寄附金の使い途（つかいみち）」に関する人々の検討を行い、全国の納税者や市内の住民への、アクションタビリティ（説明責任）をしっかりと果たしていくことがいっそう大切になってくるように思います。

この点、GCF（ガバメントクラウドファンディング）※3のように、地方自治体が具体的な使い途を事前に公知したうえで寄附を募る仕組みをふるさと納税に組み合わせる方法もあります。志布志市でも部分的に導入が進められていますが、その「事業プロジェクト目的」を、「地域の特色を活かしたまちづくりの基本理念」や「集まった寄附金の規模」に照らして、市内の人々から見ても一貫・納得したものにしていくためには、まだスタート地点にいる段階だと思います。

志布志市の特色を生かしたプロジェクトの実施



「日本一「志」の多いまち」である志布志の地名も全国的にだいたい認知されてきた感があります。志布志が名実ともに日本一の「こころざしのまち」であるためにも、全国の志布志ファンの方々から寄せられた「お志（こ）厚志、ご芳志」へ、最大限の感謝と志高い目的・目標を示していくことが、とても大切であるように思います。

本庁 企画政策課 地方創生推進室（シンガーデン事務局）Tel: 474-1111（内線 254）

- 平成28年度 435・7千人
- 平成27年度 341・1億円
- 平成26年1月1日～12月31日 435・7千人
- 平成28年8月2日 自治税務局市町村税課
- 平成27年度 調査結果（税額控除の実績等）
- 平成26年1月1日～12月31日 435・7千人

※1：「ふるさと納税」制度 「生まれ育ったふるさとに貢献できる制度」、「自分の意思で応援したい自治体を選ぶことができる制度」（総務省）として2008年より運用開始。地方自治体への寄附額のうち自己負担額の2000円を除いた全額が所得税及び住民税から控除の対象となる。地域特産品などの物品・サービスを送る「ふるさと納税返礼品」を採用する自治体が増加中。詳細は「こころざしコラム」第20回（市報しぶし）平成27年9月号掲載）等ご参照

平成27年1月1日～12月31日 1470・0億円
1295・3千人

※2：総務省公表データ 「ふるさと納税」に関する現況調査結果（税額控除の実績等）

※3：クラウドファンディング（FCF）クラウドファンディング（Crowdfunding）プロジェクトの推進や事業創発等のために、主にインターネット上で事業資金を募集し、群衆（Crowd）から資金を調達（Funding）する仕組み。2000年代後半から欧米で導入されはじめ、日本では東日本大震災が起きた2011年ごろから活用事例が見られるようになる。



特報
志布志市の魅力 × AbemaTV
志布志市の魅力を世界へ配信！
https://abemafresh.tv/sisi-garden/

多機能型情報発信拠点S.O.L.（SISI ORGANIC LABORATORIES）が7月にオープンしてから連日、志布志にゆかりのある若いクリエイターが集結して「志布志の魅力」を全国に発信一するための協議や勉強会を重ねて、情報発信を行ってきました。

11月20日午後からAbemaTVで生放送を行います。この中で7月に原付で東京までそばを届けたドキュメンタリー「へいお待ち！原付で行く日本一遠い！？」出前そばの旅～志布志・東京1123km～の完全版も披露されますので、ぜひご覧ください。

さらには、特別ゲストに全国的に有名な書家の武田双雲氏も登場します。

※放送時間は、決定後ホームページでお知らせします。